

石川県能登島ガラス美術館だより

第13号
第14号



花開く／1995年／黄金崎クリスタルパーク所蔵



飾箱「菖蒲」／1973年／東京国立近代美術館所蔵

特別展「藤田喬平 雅の夢とヴェニス」展 開催中！

能登島ガラス美術館では、日本を代表する世界的なガラス作家 藤田喬平氏(1921-2004年)の1964年から2004年まで40年間の足跡を追った大回顧展を開催しています。

藤田氏は戦後間もなく、未だ作家の手による独自の創作ガラスが一般的ではなかった時代にガラス作家として自立し、稀有な才能を以って研鑽を積み、独自の境地を極め、70年代からは海外でも高く評価されるなど、日本を代表する国際的なガラス作家としての地位を築きました。

日本のガラス界をリードし、ガラス芸術とガラス教育の両面において貢献したことで、2002年にはガラス作家としては初めて文化勲章を受章しています。

本展では、初期の代表作「虹彩」などの流動ガラスをはじめ、琳派の装飾様式をまったく新たな素材と手法で甦らせた作品「飾箱」(かざりばこ)の連作、1977年から毎年ヴェニスを訪れて制作してきたダイナミックな実験的大作オブジェや、花器、茶道具など約150点が一堂に会します。

世界のフジタが生涯をかけて追求したガラス芸術を、この機会に、ぜひご覧ください。

会 期：2008年3月8日(土)～5月11日(日) 4月15日(火)休館
観覧料：個人(高校生以上)800円、団体(20名以上)700円

中学生以下は無料

主 催：七尾市、財団法人能登島ガラス美術館振興財団、

NHK金沢放送局、NHK中部ブレンズ*、日本経済新聞社

後 援：日本ガラス工芸協会、市川市

協 力：藤田喬平ガラス美術館

*4/1よりNHKプラネット中部に社名変更

庭園では“さくら”が満開！

今年も桜の花が咲く季節になりました。能登島ガラス美術館の庭園では、満開に咲く桜の花と穏やかに波打つ能登の海を眺めることができます。

以前、ガラス美術館の丘の下には、向田(こうだ)小学校、中部中学校がありました。桜の木は、その運動場と校庭に植えられていたものです。



カルチャーパークからの風景

目 次

開催中の展覧会	1 頁
平成20年度の活動計画	2、3 頁
平成18年度の活動報告	4、5 頁
平成19年度の活動報告	6、7 頁
所蔵品の紹介、インフォメーション	8 頁

平成20年度の活動計画

H20の展覧会活動

●平成20年5月11日(日)まで開催 特別展「藤田喬平 雅の夢とヴェニスの華」

日本を代表する世界的なガラス作家 藤田喬平氏(1921-2004年)の1964年から2004年まで40年間の足跡を追い、世界のフジタが生涯をかけて追求したガラス芸術を一挙に紹介します。

●5月16日(金)～7月14日(月) 収蔵品展Ⅰ「巨匠たちのガラス彫刻」

ピカソ、シャガール、コクトーなど20世紀に活躍した芸術家がデザインしヴェネチアのガラス工房フチーナ・デリ・アンジェリが制作した作品、奇オダリがデザインしフランスの老舗ガラス会社ドーム社が制作した作品を特集紹介します。巨匠たちがガラスで表現した幻想の世界をお楽しみください。



魚 -カゴ
P.ピカソ、フチーナ・デリ・アンジェリ工房
1962年

●7月19日(土)～9月29日(月) 企画展「江戸時代の小粋なガラス ～びいどろ・ぎやまん～」

日本で本格的にガラス器の生産が始まったのは、江戸時代中期以降です。17世紀の中頃より長崎で、18世紀に入り大阪、京、江戸で、幕末に入り薩摩など日本各地で行われたといわれています。

「びいどろ」とは、ポルトガル語でガラスを意味する「ヴィードロ」に由来する言葉で、菊など和の意匠が凝らされた色ガラス器などを総称する言葉でした。「ぎやまん」は、ポルトガル語でダイヤモンドを意味する「ダイヤモンド」に由来する言葉で、もともとはヨーロッパ製のガラス器のことでしたが、日本独自の製法で作られた無色透明の厚みのあるガラスに、切子のカットデザインなどを施したのもそう呼ぶようになりました。これらのガラス器作りは、中国の製法やヨーロッパのデザインの影響を受けながら、日本独特の繊細で粋な造形感覚で制作されました。

本展では、酒宴に涼しくきらめいた食器や酒器、くらしを彩ったかんざしや煙草入れなどのガラス小物をご紹介します。

●10月4日(土)～平成21年2月2日(月) 収蔵品展Ⅱ「中国清朝のガラス工芸」

当館で収蔵している中国清時代(1644～1911年)のガラス工芸を特集紹介します。色鮮やかで重厚なガラスに丁寧な研磨や浮彫り装飾を施した独特なガラス器のほか、嗅ぎ煙草を入れたガラス製の鼻煙壺(びえんこ)や、貴石を模した色ガラスの装身具など約140点を展示します。清朝の歴代皇帝たちに愛されたガラス工芸をお楽しみください。

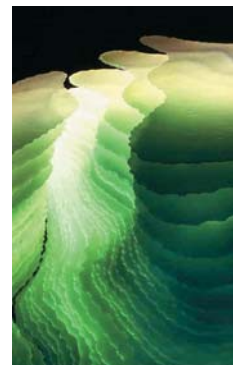
●2月7日(土)～5月18日(月)予定 企画展「現代ガラスアート・自然からの贈り物」(仮称)

自然をテーマにした日本の現代ガラスアートをご紹介します。主に取り上げるのは、波や風、大気の流れなど、目に見えない“揺らぎ”の自然エネルギーを抽象的に造形した正木友梨氏の作品などです。

正木氏は、サンドブラストという金属の細粒を吹き付けて削る技法を施した波打つ板ガラス面を幾層も重ねることで、神秘的な光を内包するようなガラス作品を制作しています。地中にうごめく春の気配や波間に潜むエネルギーなど、自然を表現したガラス作品の数々をご覧ください。



青地黄被花鳥文瓶
中国清朝 18世紀



予感(部分) 正木友梨 1986年
個人所蔵

平成20年度の活動によせて

館長 北川 邦昭

昨年は能登半島地震の影響で、当館の入館者は大幅に減少しました。今年度はそこから脱却し、入館者の増加を実現したいと思っています。



具体的には、展示企画を充実させて三つの特別展を行います。現在、好評開催中の「藤田喬平展」、江戸時代のガラス「びいどろ・ぎやまん展」などです。

また、展覧会と連動したワークショップを開催したり、ロビーを活用したミニギャラリーなども随時開催します。来館者の皆さまにご満足いただけるよう一層努力したいと考えています。



八角籠目紋舟形 画像提供：カガミクリスタル株式会社

平成20年度の休館日：4月15日、5月12～15日、6月17日、7月15～18日、9月30日～10月3日、11月18日、12月16日、12月29日～1月1日、1月20日、2月3～6日、3月17日

● **ガラスの世界を楽しもう！わくわくワークショップ**

毎月2日間、ガラス素材を使ったワークショップを開催します。お子さんからお年寄りの方までお気軽に参加できる内容です。詳細は、年間スケジュール表もしくは当館HPにてご確認ください。

4月26日(土)、27日(日) 空き瓶に描いて作ろう！飾りビン

アクリル絵具で模様を描いてオシャレな飾りビンを作ります。参加費600円

5月24日(土)、25日(日) カラフルビーズで作ろう！初夏のアクセサリ

色ガラスビーズなどで涼やかなアクセサリを作ります。参加費200～500円

6月21日(土)、22日(日) プチガラスを貼って作ろう！オリジナル花瓶

ドロップ状のガラスをボンドで貼って花瓶を作ります。参加費250～350円

7月20日(土)、21日(月) 和風も楽しい ガラス絵付け

江戸ガラスに見られる絵付け技法が体験できます。参加費200～300円

9月13日(土)、14日(日) 和風も楽しい ガラス彫刻

電動ルーターで和風絵柄のガラス彫刻を行います。参加費200～300円

10月25日(土)、26日(日) アジアン結び① ストラップ編

飾結びにガラスビーズを組み合わせたストラップを作ります。参加費350円

11月15日(土)、16日(日) アジアン結び② アクセサリー編

飾結びにガラスビーズを組み合わせたチョーカー等を作ります。参加費450円

12月20日(土)、21日(日)

空き瓶をリサイクルして作ろう！クリスマス飾り

不要になったガラス瓶をマジックやガラス片で飾りつけます。参加費100～200円

1月17日(土)、18日(日)

光を透してきれい！ちぎり絵サンドイッチ

板ガラスの間に和紙をサンドしてちぎり絵を作ります。参加費300～500円

2月14日(土)、15日(日) 春の海のアロマキャンドル

貝殻やガラス片を透明なロウで封じ込めキャンドルを作ります。参加費500円

3月21日(土)、22日(日) けずって作ろう！自然のアートグラス

ガラスのコップや皿に自然をテーマにした絵模様を彫ります。参加費200～300円

● **出張&リクエスト ワークショップ**

リクエストは館内で、出張は七尾市内の公共施設で、ご都合にあわせたワークショップを実施します。①実施期間：10月～3月 ②受付人数：7名以上～約40名 ③メニュー：ガラス彫刻、絵付け、ガラスモザイクの貼り付け ④要予約：実施月の1ヶ月前までに

● **イベントの開催**

展示会の内容にあわせたイベントやガラス素材に親しんでいただくためのイベント、市民参加型のイベントなどを、年間通じて開催します。詳細は、展示会チラシやガラ美通信、HPにて随時ご案内します。

● **ギャラリートークの開催**

当館では、各展示会で定期的に作品解説を行っておりますが、お客様のご要望にあわせた展示解説、概要説明もお受けしています。ご利用を希望する方は、事前に電話にてお申し込み下さい。

スタッフに聞いた

おすすめスポット！

能登島ガラス美術館の見どころを当館スタッフが紹介します。



雲のモチーフ

当館の建物には、自由に変化するものの象徴として“雲”のモチーフが取り入れられています。(NH)



プリズム

天井に仕掛けられたプリズムガラス。そこから出る七色の光のシャワーが展示室内を照らします。(JH)



光ファイバーの照明

ホースのようなものは、光ファイバーを使った照明装置です。この光に照らされた作品は神秘的！(YK)



👂 耳より情報 👂

わくわくワークショップカード

平成20年4月からスタンプカードを始めます。高校生以上の方は、お一人1度のご参加でスタンプを1つ押し、4度で満杯になると、そのカードがワークショップ開催日のみの入館無料券となります。中学生以下のお子様には、希望される場合、小さな記念写真シールをプレゼントします。



ワークショップ・ボランティアの募集

①ワークショップ講師

ガラス彫刻、ビーズアクセサリ作り、絵付け、ちぎり絵、ステンドグラスなどを得意とし、子供たちと一緒に作るのを楽しんで下さる方を募集します。

②ワークショップ補助スタッフ

美術館スタッフと共に、ワークショップの準備をしたり、アイデアを出して子供たちと一緒に作るのを楽しんで下さる方を募集します。

③透明おもちゃで遊ぶスタッフ

透明なおもちゃでの遊び方を考え、子供たちや親子が楽しく遊べるように手助けして下さる方を募集しています。美術教育に感心のある方や保育資格をお持ちの方を希望します。

*交通費、謝礼なし。昼食はご用意しません。ご連絡は、担当・今井まで。

平成18年度の活動報告

主な展覧会事業

テーマ展

光で変わる！ガラスのアート展

会期：2006年4月22日(土)～7月17日(月)

展示数：13点

入館者数：15,030人

“現代のガラス作品は、照明によって変わる光の造形だ”ということをご体験できるように、来館者の立ち位置で照明が変わる人感センサーを使った展示と、来館者が懐中電灯で作品を照らすという実験的な展示を試みました。

現代のガラス造形の中には、光を考慮しなくても、その見え方に影響のない作品もあり

ますが、光を透過するというガラス最大の特徴を活かした作品については、やはり照明がその造形の印象に大きく影響します。

照明にこだわるほど、ガラス作品の奥は深く、三次元の実物に接しているはずなのに、本当に自分が今見ているこ



NOTOJIMA
デイル・チーフリー 1994年

の作品の姿が、作家が目指した本当の姿なのかわからなくなっていました。この展示を通じ、企画者である私たちが本当にガラスはバーチャルな素材だということ、そして光が生み出すガラスの幻想美は、現代ガラス作品の大きな魅力であることを改めて実感した次第です。



開会15周年記念特別展

ヴェネチアが生んだ永遠の美 レースガラスの魅力展

会期：7月22日(土)～10月16日(月)

展示数：40点

入館者数：22,131人

開館15周年を記念し、ヴェネチアン・ガラスの秘法中の秘法と言われたレースガラスの展覧会を開催しました。



16世紀から19世紀にかけてヴェネチア及びヨーロッパ諸国で制作された繊細なレースガラスの器をはじめ、現代ガラス作家 藤田喬平、リノ・タリアピエトラ、大平洋一らが制作した創造性あふれるレース模様のガラス器など、初期のレースガラスから現代作家の作品までを展示し、華麗なるレースガラスの世界を紹介しました。

また、ミニギャラリー「暮らしを彩る レース模様のガラスたち」では、若手作家8名によ



る日常使いのレースガラスを紹介しました。



レース・ガラス蓋付大杯 ヴェネチア 16世紀
石川県立美術館所蔵

企画展

ファンタジー ガラスに表現された世界展

会期：10月21日(土)～2007年1月15日(月)

展示数：37点

入館者数：10,374人

現代ガラス作品には、ガラスの透明感や色彩、素材の特徴を活かした成形技法や装飾技法によって、多様な表現がなされています。



本展では、幻想的な絵が描かれた作品をはじめ、神秘的な色彩や輝きをもつ作品、不思議な造形の作品など、見るものをファンタジーの世界へと誘うガラス作品を

展示しました。作者がガラスに表現した世界、現代ガラスの表現の見どころを紹介しました。

また、会期中には関連イベント「みんなで作ろう！ファンタジーの世界」を行い、参加者で大きなアクリル板に絵を描き足して大きなファンタジーの世界を作りました。



能登半島地震

平成19年3月25日に発生した能登半島地震では、能登島でも震度5弱を記録しました。当館も若干の被害を受けたため4日間の休館を余儀なくされました。地震対策には万全を期していましたが、予期しない出来事でした。

現在は、周辺地域も復興し、地震前と

変わらない状態になりました。しかしながら、地震以来、当館の入館者数は減少傾向にあるため、職員一同、PR活動に知恵を出しながら入館者増に努めているところです。

地震を乗り越えたガラス美術館に、ぜひ、足を運んでいただきますよう、お願いいたします。(UT)

防災訓練

消火作業は勿論来館者の安全を第一に考え、避難経路の確認と反復訓練を日々行い万事に備えています。(HY)



主な普及事業

ガラスの世界を楽しもう！ わくわくワークショップ

開催数：12回(毎月2日間)

参加者数：2,001人

これまで、臨時イベントとして行っていたワークショップを本格的に年間通じて定期的に計画しました。その内容は季節感を重視し、小さいお子様から年配の方まで気軽に参加できる火を用いない安全なガラス工芸にしました。

また、多くの方がより気軽にガラス素材に触れて遊ぶことを目的としたイベント「透明おもちゃで遊ぼう」も行いました。ガラスのパズルやビー玉転がしなど透明素材のおもちゃで遊ぶ多くの親子連れの利用がありました。



リクエスト&出張 ワークショップ

開催数：リクエスト9回、出張6回(ご要望に応じて開催)

参加者数：457人

利用団体の希望する日時と内容で行うリクエスト&出張ワークショップをはじめ導入しました。合わせて15件の利用がありました。館内で行うリクエストワークショップは、保護者と学校が協力して行うPTCA行事、女性会、児童クラブや図書館、保育所などの利用がありました。出張ワークショップは、七尾市民文化祭の一環として公民館で行った他、老人会や公民館活動で実施しました。利用が多かった時期は7月で、リクエストと出張を合わせ6件の依頼がありました。



H18年度 ガラス美術館の足あと

- 4月 テレビ金沢の生放送番組を当館から中継
中台共同TVドラマ「花の恋」ロケ地視察
ワークショップ「ビー玉万華鏡作り」
テーマ展「光で変わる！ガラスアート展」始まる
イベント「光で変わる！ガラスアート展」始まる
イベント「美術館探検クイズラリー」開催
- 5月 ワークショップ「透明おもちゃで遊ぼう」
イベント「デジカメで再発見！美術館の魅力」
中台共同TVドラマ「花の恋」撮影ロケ(2日間)



- 6月 ワークショップ「夏のビーズアクセサリー作り」
イベント「まっくら美術館」開催



- 7月 ミナ・クルで「デジカメ再発見！」の写真パネル展
ワークショップ「ビーズで海の生き物作り」
リクエストワークショップ4回開催
出張ワークショップ2回開催
開館15周年記念特別展「レースガラスの魅力展」、
ミニギャラリー「レース模様のガラス」始まる



- 8月 15周年企画「クイズでめぐる美術館ツアー」
リクエストワークショップ1回開催
ワークショップ「シー・ガラスの小物作り」
ガラス玉作りデモンストレーション開催
- 9月 ギャラリートーク開催
ワークショップ「秋のビーズアクセサリー作り」
のどじま手まつり協賛企画「クラフト展」



- 10月 企画展「ファンタジー展」始まる
イベント「作ろう！ファンタジーの世界」開催
ワークショップ「ガラスに描こう①」
- 11月 出張ワークショップ4回開催
ギャラリートーク開催
ワークショップ「ガラスに描こう②」
- 12月 ギャラリートーク開催
リクエストワークショップ1回開催
出張ワークショップ2回開催
ワークショップ
「モザイクガラスのキャンドルフォルダー作り」
「オリジナルキャンドル作り」
- 1月 ワークショップ「透明おもちゃで遊ぼう」
ギャラリートーク開催
テーマ展「見てみよう！ガラスのなかを展」
始まる
ワークショップ「板ガラスのペーパーウェイト」
リクエストワークショップ1回開催
- 2月 ワークショップ「ガラスでメッセージ作り」
リクエストワークショップ1回開催
- 3月 ワークショップ「ガラスモザイクの小物作り」
能登半島地震が発生、5日間休館

人気のワークショップ レシピ①

ガラスに描こう “色えんぴつ編”

材 料：8cm角の透明な板ガラス 1枚
20cm角の板ガラス 1枚
金剛砂と水 適量

作り方：①20cm角の板ガラスの上に金剛砂と少量の水を置きます。②8cm角の板ガラス1枚をその上に乗せて円を描くように10分程度擦り合わせます。板ガラスは白っぽくなるまでしっかり擦り合わせましょう。③磨りガラス状になった面に色えんぴつで濃い目に絵を描きます。④ミニ写真立てやミニイーゼルで飾ります。



人気のワークショップ レシピ②

景色で遊ぶ！ビー玉万華鏡

材料：ビー玉 1個、反射板 3枚、厚紙 3枚
プラスチック板 2枚、スポンジシール 6枚
セロハンテープ、色テープ

作り方：①反射板を三角形の筒になるようセロハンテープで止めます。②スポンジシールを①の両端各3面に貼ります。③厚紙を三角形の筒になるようセロハンテープで止めます。④③の中に②とビー玉を入れます。⑤プラスチック板を三角形に切り③のフタを作ります。⑥ビー玉に面した方はセロテープ、もう一方は色テープで止めて覗き穴にします。



平成19年度の活動報告

主な展覧会事業

テーマ展

見てみよう！ガラスのなかを・・・展

会期：2007年1月20日(土)～6月18日(月)
展示数：28点
入館者数：13,188人

所蔵品の中からテーマに合った作品を取り上げる「能登島ガラスコレクション・テーマ展」として今回は、かたまり状のガラスの中に何かを閉じ込め、埋め込み、ガラスの内部にユニークな世界を表現した現代のガラス作品を紹介しました。

気泡が氷ついたように静止したり、万華鏡のように反射したりと、神秘的な異空間が広がるガラス作品の内部空間を覗き込むという見方の提案によって、来館者一人一人が作品の魅力を発見できるようにと企画しました。

しかし、作品をじっくり見ることで、わきあがる疑問、どうしていろいろな空間がガラスの中にできるのかということについて、作品の制作過程をどうわかりやすく伝えていくのが課題となりました。



ガラスのなかの瞬間
奥野 美果 2002年

企画展

香りとガラス 2つの出会いと軌跡展

会期：6月23日(土)～9月17日(月)
展示数：88点
入館者数：15,913人



「香りとガラス」のかかわりは紀元前16世紀頃までさかのぼるとされています。古

代エジプトやメソポタミアではカラフルな香油壺、ローマ時代では吹きガラス製の香油瓶、イスラム世界ではバラ水用の大型瓶、欧米では遊び心のある香水瓶が製作されています。

本展では、およそ1,000点を超える高砂香料コレクションの中から、芳しい香りを収めるにふさわしいとされたガラス素材の香りのうつわを紹介しました。

また、香水やお香などに用いられる香料の資料展示や、若手作家が制作した香りのガラス器を紹介したミニギャラリー、香りを作るワークショップなども行いました。



巡回展

国際ガラス展金沢2007 in 能登島展

会期：9月22日(土)～11月26日(月)
展示数：73点
入館者数：10,726人

世界唯一のガラスアートの国際公募展「国際ガラス展・金沢」は、1984年(昭和59年)に始まり、今回で記念すべき第10回展を迎えました。能登島への巡回は前回に続き2回目となりました。

世界35ヵ国から456点におよぶ作品応募があり、厳正な審査を通過した世界19ヵ国73点の、造形の拡がりや可能性などを感じ



SECTION
レネ・ポトカー 2006年

ガラスのかたまりをのみで削って彫刻するという新たなガラスの表現技法を開拓した作品に送られました。また今回特別に設けら

させてくれる質の高い作品が出品されました。

大賞は、デンマークの女性ガラス作家レネ・ポトカー氏の「セクション」。ガラスのかたまりをのみで削って彫刻する

れた第10回展記念特別賞は、富山市在住の小島有香子氏が受賞しました。他にも、富山県から5名、石川県から1名が入賞し、世界レベルの本展で北陸の若いガラス作家たちの活躍が目立ちました。お客様からは、「現代ガラスアートは面白い!」という嬉しい感想も聞かれ、充実した展覧会となりました。



Layers of Light -MOON-
小島有香子 2006年

企画展

魅惑のヨーロッパガラス展

会期：12月1日(土)～2008年3月3日(月)
展示数：約50点
入館者数：5,254人



黒幾何学文リキュールセット
オーストリア 1920年頃 石川県立美術館所蔵

ヨーロッパのガラス器の歴史をご紹介します、その文化が現代のガラス造形にも通じていることへの理解となるような展覧会を企画しました。

現在、知られているような華麗なガラス器の登場は、ルネサンス時代のヴェネチアに始まります。ヴェネチアは、古代ローマのガラス製造技を継承、発展させたイスラムの国々との交易により、その高度な吹きガラスの技術を導入し、15世紀から17世紀にかけてヨーロッパのガラス工芸の基礎を築きました。

その後、各国でガラスの製造技術が競い合われる中で、時代や地域ごとに独自に洗練されたガラス器が生み出されました。

本展では、16世紀のヴェネチアのガラスから18世紀から19世紀のボヘミアやイギリスの透明度の高いカットガラスやフランスのエミール・ガレなどアール・ヌーヴォーのガラス、第二次世界大戦後の北欧のガラスまでを紹介しました。続いて、他の展示室では、伝統を受け継ぐヴェネチアのガラス工房やフランスのドーム社、そしてチェコの現代ガラスアートも紹介しました。

主な普及事業

ガラスの世界を楽しもう！ わくわくワークショップ

開催数：12回(毎月2日間)

参加者数：1,155人

平成19年度は、できる限り展覧会に合わせた内容にし、「香りとガラス」展ではガラス器に透明なアロマキャンドルを作るメニューなど、展示作品を見直すきっかけにつながるようなワークショップを計画しました。

また、「国際ガラス展・金沢2007」の銀賞受賞者の竹本亜紀さんを講師に迎えたお楽しみワークショップでは、作品鑑賞も含めた内容にし、本格的にエナメル絵付け技法でガラスの抽象絵画を描く体験を行いました。

他にもスノードームや夢のハコなど、時間前に材料がなくなるほど盛況なメニューが続出しました。



リクエスト&出張 ワークショップ

開催数：リクエスト2回、出張4回(ご要望に応じて開催)

参加者数：218人

昨年、好評を博したリクエスト&出張ワークショップは、10月から3月まで期間を区切って実施しました。

館内で行うリクエストで利用があったのは、地区の教育研究会や公民館活動の一環としての利用でした。

出張での利用があったのは、七尾市民文化祭の一環として公民館で行った他に、小学校の図工の授業や地区の子供



人気のワークショップ レシピ③

かんたんスノードーム

材 料：フタ付き瓶 1個、人形消しゴム 1個
 具材用のプラスチック板とモール 適量
 水、ポンド、両面テープ、テグス、
 油性マジック、発泡スチロール

作り方：①人形消しゴムを瓶の底にポンドでくっつけます。②プラスチック板に絵を描いたり、モールを細かく切って具材を作ります。プラ板は発泡スチロールに両面テープやテグスで固定させると、水中に浮かせることもできます。③瓶の中に具材と水を9分目くらいまで入れてフタを固く閉めます。



人気のワークショップ レシピ④

海の香りのキャンドル

材 料：小さめのガラス 1個
 ジェルワックス 70g
 座金付き芯 1個
 アロマオイル 数滴
 具材用の貝殻、砂、ガラス片 適量

作り方：①ガラスの中央に芯を置いて砂を2cmくらい敷きます。②芯から遠ざけるように貝殻などをガラス内に置きます。③溶かしたワックスにアロマオイルを入れ、ガラスに流し込みます。④水につけるなどして冷まし、固まったら余分な芯を切ります。



H19年度 ガラス美術館の足あと

4月 ワークショップ「お花のアクセサリ作り」
 ミニギャラリー「ガラスに活ける いけばな展」



5月 ミニギャラリー「ガラスの中に広がる世界
 パーナーワークのガラスたち」
 パーナーワークデモンストレーション開催



ワークショップ「板ガラスで押し花タイル作り」

6月 ワークショップ「スノードーム作り」
 企画展「香りとガラス 2つの出会いと軌跡展」、
 ミニギャラリー「香りのガラス展」始まる
 イベント「クイズでめぐる美術館」開催

7月 ギャラリートーク開催

ワークショップ「香りのキャンドル作り」

8月 ギャラリートーク開催

ワークショップ「香りのうつわり作り」

9月 ギャラリートーク開催

ワークショップ「カタチを楽しむお香作り」



巡回展「国際ガラス展金沢2007in能登島展」、
 ミニギャラリー「みちかなガラスアート」始まる
 10月 フチーナ・デリ・アンジェリの主宰者

エジディオ・コスタンチーニ氏が死去

ガラス作家の竹本亜紀さんを迎えワークショップ

「ガラスに描くイメージの世界」開催

リクエストワークショップ1回開催

11月 ワークショップ「遊べるペーパーウェイト作り」

出張ワークショップ2回開催

リクエストワークショップ1回開催

12月 企画展「魅惑のヨーロッパガラス展」始まる

ギャラリートーク開催

出張ワークショップ1回開催

ワークショップ

「クリスマスプレゼントのガラス器作り」

1月 お正月企画「透明おもちゃで遊ぼう」

ギャラリートーク開催

ワークショップ「描いて作るオリジナルグラス」

2月 ワークショップ

「ガラス器でバレンタインスイーツ作り」

ギャラリートーク開催

3月 特別展「藤田喬平 雅の夢とヴェニス華展」

始まる

ガラス作家藤田潤氏を迎えギャラリートーク開催



ワークショップ「ガラスモザイクで夢のハコ作り」
 ギャラリートーク2回開催

■ 所蔵品の紹介

今回は、日本を代表するガラス作家・藤田喬平氏の飾篭「紅白梅」(かざりばここうはくばい)を紹介します。飾篭は、その名のとおり箱状の作品で、連作で発表されました。当館の所蔵品はその中の一つです。

藤田氏は、学生時代から憧れていた江戸時代の琳派芸術をガラスで表現してみたいという思いから、試行錯誤のすえに飾篭を完成させました。

ある講演会で「このガラスの箱の中に何を入れますか」という質問に、藤田氏が「夢を入れます」と答えたことから、「フジタのドリーム・ボックス」と呼ばれるようになったエピソードもあります。

ります。

箱の形は型吹き成形によるものです。まず溶けたガラスを巻き取り、粒状の色ガラスをつけて下地を作ります。そして表面の模様となる金箔、プラチナ箔、色ガラスを溶かしつけます。鉄製の型の中に吹き込んで箱状にし、形がととのったら徐冷炉で冷やし固めます。その後、ガラスを切断、艶消し加工を施して、最後に銀の覆輪をつけます。

当館所蔵の飾篭は、下地に紫の色ガラスが使われています。蓋を閉じると光が遮られ、



飾篭「紅白梅」内部



飾篭「紅白梅」 藤田喬平 1992年

漆黒の地に紅白のガラスと二色の箔が絢爛に舞う様子が浮かび上がります。尾形光琳「紅白梅図屏風」の世界を彷彿とさせる一点です。(学芸員 床坊睦美)

■ ショップ&カフェ情報

ミュージアムショップ GLASS SILICA

ショップの名前“シリカ”とは、ガラスの原料を意味する言葉。店内はガラスアイテムでいっぱいです。



スタッフに聞いた おすすめ商品

野ロミエコさんの
ガラス ¥1,050~
宇宙、空、海、青をテーマに、季節感のあるガラスオブジェやガラスアクセサリーを制作している作家さんです。(OR)



斉藤秀輝さんの
ガラス ¥1,050~

ポロシリケートという熱と衝撃に強いガラスで制作されています。ペンダントトップ、ヘアアクセサリーが大人気です。(HE)



桜シリーズ グラス
¥630

日本人として心をうばわれる桜。季節を問わず一年を通して使ってみたくわい桜模様のガラスたちです。(TY)



レストカフェ 玻璃

海と庭園が一望できます。四季折々の風景を眺めてみてはいかがでしょうか。



*席数：35席
*ラストオーダー：閉店の30分前まで

スタッフに聞いた おすすめメニュー

オリジナルモナカ
夜桜 ¥700

藤田喬平展の“飾篭”にちなみ、モナカに黒ゴマ味のソフトクリームを包んで、つぶ餡と白玉をそえた期間限定デザート。(TS)



■ インフォメーション

《入館料》

個人(高校生以上) 800円
団体(20名以上) 700円

*中学生以下は無料となります。また、喫茶室、ショップのある棟は、入館が無料です。
*各種割引きについては、直接お問合せください。

《休館日》

毎月第3火曜日(祝日の場合翌日休)
年末年始(12月29日~1月1日)

展示替え期間

*お出かけの際は、直接、お問合せいただくか、当館のHPでご確認ください。
*ショップ、喫茶室の営業も美術館と同じです。

《開館時間》

午前9時~午後5時 *入館は閉館30分前まで。
(12~3月は午後4時30分で閉館)
*喫茶室、ショップの入店も同じです。屋外庭園は、閉館後に閉園します。

《交通案内》

車をご利用の場合：能登有料道路徳田大津JCTを経由し、能越自動車道田鶴浜料金所から約25分。または能登有料道路上棚矢駄ICから約35分。
電車・バスをご利用の場合：金沢駅から和倉温泉駅まで特急電車で約1時間。駅前からのとしま臨海公園行きバスに乗り約20分。美術館前下車すぐ。

石川県能登島ガラス美術館だより
第13・14号 平成20年3月発行

編集・発行
石川県能登島ガラス美術館

〒926-0211
石川県七尾市能登島向田町125-10
TEL (0767) 84-1175

<http://www.city.nanao.lg.jp/glass/index.html>

石川県能登島ガラス美術館
NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM